

教科	公民	科目	倫理	担当	
履修学年	2年	単位数	2	履修区分	文系クラス（必履修）
教科書	倫理（数研出版）				
副教材等	倫理演習ノート（数研出版） テオリー最新倫理資料集三訂版（第一学習社）				

1 学習目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としてのあり方・生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者とともに生きる主体としての自己の確立をはかり、良識ある公民として必要な能力と態度を育む。

2 学習評価

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付け人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとする。
b	思考・判断・表現	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在および価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
c	資料活用の技能	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有能な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
d	知識・理解	現代の社会的事象と人間としてのあり方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。

3 全体計画

期	月	内容の まとめり	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点				単元の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	4	第1編 現代に生きる自己の課題	1 人間とは何か 2 青年期の意義と課題 3 自我の発見と自己形成 4 パーソナリティの形成と生きがい		○	○			a 青年期の世代的特徴や自己形成と生きがいのかかわりを認識し、自立した社会人となるための意欲が持てるようになる。 b 人間や自分がどのようなものであるか考え、他者とともに生きることの大切さを理解することができる。 c 自分の性格や能力などについて考察し、それを文章に表現したり、発表したりすることができる。 d 人間の多様性・多義性、個性化と社会化の意味を理解することができる。	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など
					○		○	○		
	○				○		○			
	○				○	○	○			
	6	第2編 人間としての自覚	第1章・西洋思想の源流	第1節 古代ギリシアの思想 第2節 キリスト教 第3節 イスラーム…『クルアーン』の教え	○	○			a 神話や哲学、宗教が人間に対して持つ意味について関心を持つことができる。 b 哲学や宗教が誕生してきた背景を考察することができる。 c 現代における諸宗教の実情について調べるとともに、宗教について自分なりの考えを持つことができる。 d 哲学や諸宗教成立の歴史的背景が理解できる。	
					○	○	○	○		
前期中間考査										
前期	6	第2編 人間としての自覚	第2章・東洋思想の源流	第1節 古代インドの思想と仏教 第2節 中国の思想	○	○		○	a 日常生活を振り返って仏教や儒教文化への関心を抱くことができる。 b 縁起の思想に立って、現実の生活を考えることができる。 c 日本社会にある儒教文化について調べ、文章・図にまとめることができる。 d ブッダの思想と儒家が求めた仁や礼などが理解できる。	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など
					○		○	○		
	9	第3編 現代に生きる人間の倫理	第1章・西洋近代の思想	第1節 理性への信頼と人間の尊厳 第2節 自然・科学技術と人間 第3節 個人・社会と自由 第4節 民主社会の倫理	○			○	a 現代の科学・技術と人間生活とのかかわりに興味と関心を持つことができる。 b デカルト・ベーコンの思想を通して、科学的思考の意味について考えることができる。 c 帰納法と演繹法について具体例を挙げ、図式化することができる。 d ルネサンスと宗教改革がヨーロッパの近代化に持った意義が理解できる。	
					○	○	○	○	a 「民主的」という言葉がどのような使われかたをしているかについて関心を持つことができる。 b 自由について考えるとともに、プラグマティズムの思想が持つ民主主義や教育に果たした意義について考察することができる。 c 自由や啓蒙思想家たちの思想にふれ、自分なりの考えを持つことができる。 d カントやヘーゲルの倫理や、ベンサム・J.S.ミルの思想の理解を通じて、「幸福」の問題について考えることができる。	
前期末考査										

後 期	9	第3編 現代に生きる人間の倫理	第2章・現代の思想	第1節 現代思想の流れ	○	○	○	○	a 現代において他者の存在や理性の意味を問い直すことに興味を持つことができる。 b 合理的思考の意味と限界について考えることができる。 c 社会参加あるいはボランティア活動について、自分の意見を発表することができる。 d キルケゴールやニーチェ、サルトルらの思想の理解を通して、主体的に生きるということの意味について考えることができる。	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など	
		第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚	第1章・日本の伝統思想と東洋思想の受容	第1節 日本の風土と古代日本人の考え方	○	○	○	○	a 日本の気候・地形・植生などの風土に関心を持つことができる。 b 古代以来の日本の罪観念や仏教文化の定着について、現代と比較しながら考えることができる。 c 日本の風土や日本仏教の宗派がそれぞれどのような特徴を持っているかを調べ、発表できる。 d 記紀神話に記された死生観・道徳観や、日本仏教の思想とその影響を理解できる。		
				第2節 仏教の受容と展開	○	○	○	○	a 日常生活の中にみられる儒教的な特徴に関心を持つことができる。 b 日本人の思考傾向の中にある儒教的なものについて考えてみるができる。 c 日常生活にみられる儒教的な儀礼について調べ、意見を述べることができる。 d 日本における儒学思想の発達やその歴史的背景を理解することができる。		
	11			第3節 儒学の受容と国学の発達	○	○	○	○			
	後期中間考査										
	5	11	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚	第2章・西洋思想の受容と近現代の日本の思想	第1節 近代の日本の思想	○	○	○	○	a 欧米化された現代日本社会の現状を振り返り、明治以降の日本の歩みに関心を抱くことができる。 b 近代日本の思想が求めたものについて考察することができる。 c 啓蒙思想・キリスト教思想・伝統思想などについて、資料から思想的特徴および思想的意義について読み取ることができる。 d 近代文学・大正デモクラシー・近代日本哲学などの内容を理解することができる。	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など
					第2節 国際社会に生きる日本人	○	○	○	○	a 現代の国際社会の中で生きる日本人としての立場に関心を持つことができる。 b 変化する国際社会の中で今後の日本のあり方について考えてみるができる。 c 現代の国際社会の中で、日本がどのような役割を果たしているのかを調べ、発表することができる。 d グローバリゼーションとナショナリズムとの関連を理解することができる。	
			第5編 現代の諸課題と倫理		第1節 生命倫理	○	○	○	○	a 現代の生命科学や医療技術の状況に関心を寄せることができる。 b 生命倫理にかかわる諸問題や、現代の福祉の方向について考えることができる。 c 現代社会が求めている価値について調べ、意見をまとめることができる。 d 生命倫理の現状を認識することと、ロールズやセンの考え方を理解することができる。	
	後期末考査										

4 評点の観点別配点(考査以外も含む合計)

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	25	25	25	25
b	25	25	25	25
c	25	25	25	25
d	25	25	25	25
計	100	100	100	100

5 授業や課題等に取り組む上での留意点

- ①授業第一に、ノートを作成を確実にこなすこと。
- ②演習ノートを用い、基礎知識の定着に努めること。
- ③授業を欠席しないこと。

※変更がある場合は、教科担任が事前に連絡します。